

CONTENTS

自作自演166 鈴木 武・佐藤義信・高橋敏郎・吉田昭夫 2

第2回 インドの都市から考える
ヒンドゥー教における住まいの象徴性 柳沢 究 4

第29回 JIA 東海支部設計競技 「間」- 風土を見る -
表彰式・講評会・谷尻誠氏記念講演会 中澤賢一 6

JIA 静岡発 第2回 JIA 塾 天竜材の未来/地盤改良について学ぶ ... 清 峰芳 7

JIA 愛知発 青年委員会 建築教室 紙コップで造形と空間認識、評価まで... 森本初雄 8

JIA 岐阜発 第2回「JIAの窓」 JIA以外の建築家と自作をテーマに交流
大瀧繁巳・村山恒久・山田浩史・桜井裕己 9

JIA 建築家大会2012横浜「共に超える」 江川静男・吉元 学・久保田英之 10

JIA 東海大会 in 伊賀 「継」
松本正博・西出 章・池澤邦仁・滝井利彰・中西修一・川崎貴寛・村山邦夫・村林 桂 12

第44回 中部建築賞 入賞・入選・特別賞作品 18

保存情報 第135回 見晴台遺跡 神谷勇雄 20
旧半田大本営明治天皇仮御所 原眞佐実 20

理事会レポート 鳥居久保 21

東海支部役員会報告 村山恒久 22

東海とっておきガイド⑤① 三重編 西出 章 23

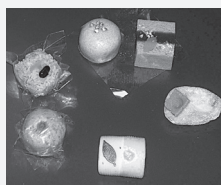
地域会だより 23

編集後記 生津康広・黒川喜洋彦 24

◀ 伝統を味わう旅 11 島根 ▶

重要伝統的建造物群保存地区 【大田市大森銀山】

昭和六十二年十二月五日、伝統的建造物群およびその周囲の環境が、地域的特色を顕著に示している鉾山町として選定されました。島根県の中央にある大田市の山間部に位置し、世界遺産の石見銀山を背景に、谷あいを通れる銀山川に沿って細長く形勢された町並みです。武家屋敷と町家が混在し、江戸時代をはじめ年代にばらつきがある建物が並ぶのが特徴です。文化財の活用について、所有、管理という観点から見ると、重要文化財である熊谷住宅（表紙の写真左側）を訪れました。管理にかかわる非常に良い成功例とされています。



彩雲堂で買い求めたお菓子

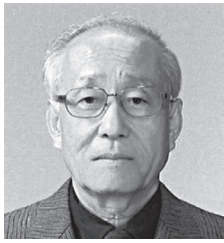
平成十三年頃、市に建物と民具一式が寄贈され、平成十八年に修理を終えて公開されました。公募で雇用された地元女性たちが指導を受けて熊谷家の生活文化を習得し、一般公開後は、「家の女たち」という運営団体として管理と館内ガイドを務めてきました。文化財を受け継ぐ仕組みとして、ヘリテージ・オーナーシップという新たな発想で、地域の人たちがその保存、活用に携わることが重要になってくるといわれています。

UIA千人茶会では中国支部の僊石友秋さんが松江の茶菓子「朝夕」を準備され、茶会当日は九条館で茶人としてJIAの席主をされました。その彩雲堂で「蕎麦」「北風」「干し柿」「山茶花」「柚子」「錦秋」（写真上から時計回り）を買い求め、僊石さんについて伺ったところ、近く



塚本隆典
愛知地域会

に事務所があるのでよくお見えになり、老いてますますすお元気とのことでした。



鈴木 武 (JIA 静岡)

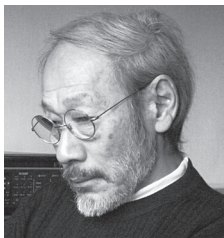
(静岡市清水区大手1-7-7 TEL/FAX 054-366-6437)

“縁”

静岡県富士宮市上井出、富士山大沢崩れを眼前に見る標高約700mの地に「日本建築専門学校」がある。まったく偶然の縁で、昨春から少しかわりを持つこととなった。

20年ほど前、あるお寺の客殿・庫裏工事の折り、現場に若い大工数人が一生懸命、棟梁の手元で作業している姿に心打たれた。聞くと「日本建築専門学校」の卒業生たち。棟梁は学校の実技指導者であることを知った。この学校の設立は“木の文化の守り手をつくる”という創設者の高い理想と、このままでは日本の伝統的木造建築はすたれ後継者がいなくなってしまうという危機感と行動力が、当時マスコミを含め世間に強いインパクトを与えた。そのときの記憶が蘇り、いよいよ社会で活躍できる人材輩出の時が来たんだ！と喜んだ。それから歳月約15年、再びお寺の客殿・庫裏工事に際し紹介された棟梁とその仲間、なんと20年前の青年大工たちの成長した雄姿であった。棟梁(3回生)は時代を反映しCADを自在に使いこなし、扇垂木の要求も難なくやってくれた。大きな数寄屋住宅の現場も拝見、行き届いた整理・清掃の中、寡黙に作業するこの若い宮大工グループに新しい職人像を感じ、ますます好きになった。いつの日かまた一緒に仕事がしたいなと思いつつ、一昨年从去年末の工期で挑んだ書院造の建築に際し、彼らグループを紹介することができ、また一つ作品を重ねた。

「日本建築専門学校」は胞子のように日本各地で“伝統木造建築文化”の担い手として活躍できる人材育成に懸命である。しかし近年、少子化の煽りか生徒数の減少は苦勞の種。何ととしても生き残らないと日本の伝統建築文化は大変なことになる。その一念で、中村昌生先生を頂点に頑張る姿を見ている。みなさん、1度学校を訪ねてみませんか！



佐藤 義信 (JIA 愛知)

KUU・KAN (名古屋市守山区翠松園2-2409 TEL/FAX 052-793-5431)

「出戻りです」

今から17年前、47歳のとき…図らずも京都迎賓館の設計者に選定され、53歳から3年間、京都へ、その後、名古屋を通り過ごし、生まれ故郷である東京へ軸足を移し、設計活動を行ってきました。その間は「発表できない」仕事も多く、その中で名古屋・新栄町のマザック・アート・プラザは久しぶりに世に問うことができる作品となりました。

還暦を迎えたとき、家族に「今後は好きな建築設計を、自分のために続ける」と宣言。退社するタイミングを見計らっていましたが、昨年1月に日建設計を退社し、現在は名古屋に軸足を置き、名古屋：4日、京都：1日、東京：2日のペースで活動を続けています。

継続して日建設計の業務にもかわりつつ、自分の事務所の仕事として純木造で天竺様の寺院(名古屋市守山区)や、月見酒のための庵(京都市)など、小さくて、テーマが明確で、発表できる作品づくりを楽しんでいます。

また、今までの設計活動で培われた人間関係が生かせる仕事を、皆と一緒に楽しみたいと願っています。人にではなく、事に仕える＝仕事と心得ます。

大森寺(名古屋市守山区) パース





高橋 敏郎 (JIA 愛知)

愛知淑徳大学 (長久手市片平9 研究棟8階 TEL 0561-62-4111 FAX 0561-63-9308)

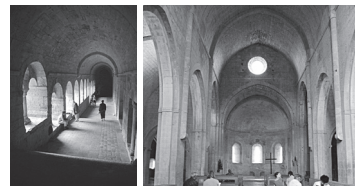
ル・トロネ修道院

この10年ほど、暗黒時代の西欧でいかにして建築文化を再興したかに興味を抱き建築行脚を続けてきた。プレロマネスクからゴシックへの数百年の道筋は極めて興味深い。北スペインのケルト装飾の教会の素朴さ、トレドで見た解体寸前の教会のスキッチ、セビリア・ヒラルダの塔から見つけた小教会のトロンプ、世界遺産のギリシャ正教会のトロンプのモザイク、重力との戦いをみごとな祈りの空間へと昇華させていた。

9月、自主企画「旅の大学」でJIA会員7名を含む23名で南フランスに、ル・トロネ修道院ほかのシトー派修道院とコルビジェの建築を訪ねる旅に出た。前者はコルビジェがクローチエリ神父から勧められて見に行ったのは有名。『粗い石』を読み、期待に胸弾ませて渡航した。

ル・トロネ修道院は想像をはるかに超えていた。まるで倉庫のような、バットレスもない素朴な外観。三位一体の連窓を持たず礼拝堂入口が中央にない不均衡、ステンドグラスもはまっていない小さな丸窓、鐘楼だけが教会であることを物語る。側廊に設けられた外部との唯一の開口をくぐると「清貧」「貞潔」のシトー派のテーゼをそのまま形にしたような端正な石組みの沈黙に迎えられる。装飾を省き無駄を削ぎ落としたような空間、よく見なければ気付かないほどの尖頭となったアーチ・ヴォールト、リブを支えるさりげない無装飾の持ち送り、小さな窓の光を内部に広げるための隅切り。コルビジェがヒントを得たのが一目瞭然であった。斜面の土地に既設の建物を考慮した結果、変則的に北側に設けられ変形し、階段やスロープを何か所か設けた回廊、中庭を取り囲む双子アーチの連続。独立柱と回廊アーチの柱頭のわずかな蕾の彫刻が唯一の装飾で、この端正さに合っている。

光と闇と粗い石が描き出す清楚、均衡と秩序を感じさせる祈りの空間であった。 回廊と礼拝堂



吉田 昭夫 (JIA 岐阜)

歩設計 (岐阜市黒野南3-80 TEL 058-239-2214 FAX 058-239-8589)

ヨーロッパ研修旅行

うちの事務所では、もうずいぶん以前より月々5,000円の積立をし、2年に1度ヨーロッパに建物を見に行こうと決めています。過去には、ロンドン、バルセロナ、パリ、ベルリン、コペンハーゲンなど、昨年は再度パリ、そして平成25年1月4日より再度ロンドン。

積立の120,000円に事務所から30,000円の補助、合計150,000円のケチケチ旅行ですが、ホテルのチェックインから地下鉄・バスを使った移動まで、すべて自分たちで計画し自分たちの足で行動しますから、あまり費用はかかりません。

計画段階では行きたいところがたくさんあり、できるだけ予定に入れたいという気持ちになります。実際歩いてみると夜中までかかり、へとへとでホテルに帰るといったこともたびたびですが、タクシーやバスで有名建築を巡るのではなく、徒歩、地下鉄、路線バスで町の雰囲気を感じながら街中のちょっとした建物に何かを感じたり、日本との文化の違いを実感できる時を過ごすのが私は好きです。

コペンハーゲンのレンタルサイクルは街中にたくさんのステーションがあり、日本円で500円ほどのコインを入れるとポールから外れ、利用できます。どこのステーションに返してもいいので大変便利です。返却時、ポールにチェーンの先端を差し込みロックすると、500円が戻って来ます。貸し出しの係員も誰もいませんが、放置されたレンタルサイクルを見つけた人がステーションに戻してあげれば500円を手にすることができるシステムです。そのおかげで放置されたレンタルサイクルを見かけることはありません。

北欧の人たちの合理性を垣間見、日本と比較し、まだまだ無駄が…と思います。まずは人を信じることから始まるのではと、いつも感じて帰ってきます。

インドの
都市から
考 え る
第 ② 回

ヒンドゥー教における住まいの象徴性



柳沢 究

名城大学理工学部建築学科 准教授

やなぎさわ・きむむ | 1975年横浜市生まれ。2001年京都大学大学院修了。2003年神戸芸術工科大学助手。2008年一級建築士事務所建築研究室設立。2012年より現職。博士(工学)作品:「斜庭の町家」「紫野の町家改修」[SAKAN Shell Structure] ほか。著書:「京都げのむ」「生きている文化遺産と観光」「無有」ほか。受賞:地域住宅計画賞、京都デザイン賞入選、雪のデザイン賞奨励賞、タキロン国際デザインコンペ2等ほか。

前回、ヒンドゥー教には「浄／不浄観」に基づく階層的秩序を指向する傾向があり、世界の姿もまたメール山を頂点とする階層的な同心円構造によってとらえられること、そしてそのコスモロジーが都市に投影されている事例を紹介した。今回はそのようなヒンドゥー教の観念と住居のかかわりについて見てみたい。

回住居の中の浄／不浄

ヒンドゥー教徒の伝統的住居には浄／不浄観に従った三階層の領域があるとされる。最も神聖で清浄な領域とされるのは、家庭内の祭祀(プージャ)が執り行われる祭壇のある場所である(図1)。そこにはシヴァやヴィシュヌといったヒンドゥーの神々や聖人の図像が祀られる。日本に例えれば仏壇と神棚が混ざったような場所であるが、日本と異なるのは、現代でもほとんどすべての家に(大小の差はあるが)このような祭祀の場が備わっている点である。

これに続く清浄な領域が台所と玄関である。台所(図2)は身体に入る食品の浄／不浄を、玄関は家に入る人間の浄／不浄をコントロールする場であるからだろう。居室やヴェランダといった生活スペースは中間的な領域である。不浄の領域と見なされるのは、浴室やトイレ・ゴミ置き場といった人体からの排出物(体液や排泄物)、家からの排出物(排水・ゴミ)に関する領域である。部位では床も不浄とされる。

清浄な領域と不浄な領域はなるべく離

すべきとされ、その配置は後述する方位やマンダラの高階層キーと関連づけられる。また不浄な領域や部位の掃除は、家人ではなくそれを専門とする「儀礼的に穢れた」人々(掃除人など)が行うものとする考え方は、今も根強い。

回宇宙としての住居

浄／不浄観とならびヒンドゥー教に通底する思想に、世界を司る普遍的原理=ブラフマンは、個人の本体=アートマンと同一であるとする、「梵我一如」という考え方がある。宇宙の中に小さな宇宙(例えば人体)があり、その中にも宇宙全体が含まれるという、無限の入れ子構造の世界観につながるもので、この考え方に則れば住居にも宇宙が投影される。

そのようなヒンドゥー教の思想に基づく、住居や建築(ヴァストゥ)にまつわるインドの伝統的な知識(ヴィディヤ)の体系を「ヴァストゥ・ヴィディヤ」と呼ぶ(ヴィディヤは漢字では「明」をあてる。つまり漢字に置き換えればヴァストゥ・ヴィディヤは「匠明」となるのか)。その起源は紀元前1500年頃まで遡り、各地域・各時代に編纂された多くの書物が伝わる。その内容は敷地選定から寸法体系までを幅広くカバーするが、特徴的なのは、神々の配置されたマンダラを建築や都市のレイアウトにあてはめるという手法である。宗教的意味合いが色濃いものの、気候条件や伝統的技術・習慣に適應しつつ建築のクオリティを維持するための経験知の集成という側面を持つと考え



図1: ある住宅の祭壇(マドゥライ)



図2: 土製の竈のある台所(マドゥライ)。今ではこのような台所は少ない

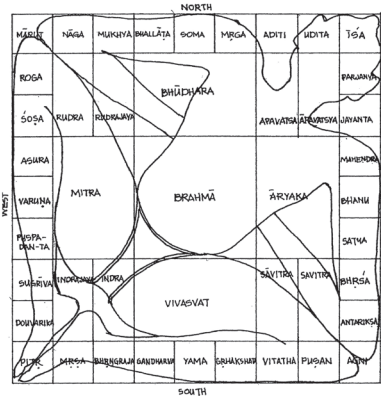


図3：ヴァストゥ・プルシャ・マンダラ

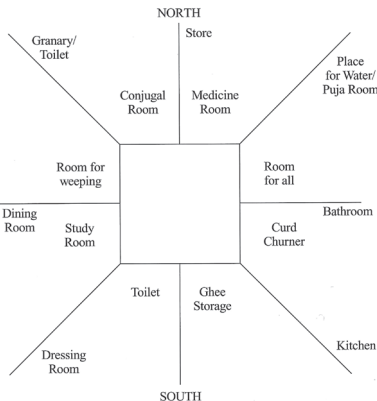


図4：ヴァストゥ・プルシャ・マンダラに基づく諸室配置の例（図3・4の出典：Chakrabarti, "Indian architectural theory : contemporary uses of Vastu Vidya", Oxford University Press, 1999）



図5：着工時の祭祀の風景（出典：http://houseconstructionindia.blogspot.com/2010/05/vastu-guidelines-rituals-before.html）

られる。誤解を恐れずに言えば、東アジアにおける風水、あるいは日本における家相学に似る。

ヴァストゥ・ヴィディヤに基づき住居を計画する際の基本的なツールとなるのが、ヴァストゥ・プルシャ・マンダラである。ヴァストゥ・プルシャとは、かつて天と地をその身体で覆いつくす魔物であったが、神々によって大地に押さえつけられたという。いわば大地の精霊であり、土地のもつエネルギーを人（神）格化したものである。ヴァストゥ・ヴィディヤにおいては、建物をたてる敷地は（実際の形はどうあれ）理念上各辺が東西南北に即した正方形であり、そこにヴァストゥ・プルシャがうつぶせにぴったりと横たわっていると考える。頭が東北、足が南西である。敷地はさらに8×8や9×9のグリッドに分割され、各区画にブラフマー神を筆頭とするヒンドゥーの神々が、太陽の運行や方位のヒエラルキーに従って配置される。これがヴァストゥ・プルシャ・マンダラである（図3）。ヴァストゥ・プルシャは人体の、神々の居並ぶマンダラは宇宙の表象であり、かくして住居はヴァストゥ・プルシャ・マンダラを通じて、宇宙と人体という二つの秩序（コスモス）に接続する。家もまた一つの宇宙となる。

ヴァストゥ・プルシャの身体部位や配置された神々の属性は、住居各部の用途を規定する。例えば、心臓のある中心区

画は創造神ブラフマーの座する最も重要な場所であるため、建築物を建ててはいけない。すなわち中庭にしなくてはならない。頭部にあたる東北隅は中庭に次ぐ神聖な場所であり、祭祀室などにふさわしい。足にあたる南西隅には不浄なトイレを置く。南部は死を司る神ヤマ（仏教でいう閻魔）の領域であるから、入口をつくってはいけない。南東部は火神アグニの領域であるから台所に向く。といった具合である（図4）。このような方位のヒエラルキーは、モンスーンが吹きつけ昼の日射が直撃する南西の方位が嫌われ、朝日の光が入る東が尊ばれる、というように環境的条件の反映という観点から解釈することもできるだろう。

□ヴァストゥ・ヴィディヤの実際

とはいえ実際の住居では、敷地の制約や家の規模の問題もあり、以上のような規定が忠実に実現されることは少ない。現代の都市部の集合住宅では、そもそも中庭を設けることも難しい。しかしながら場所の浄／不浄や方位に関する観念は、今でもかなりの程度意識されていると考えられる。家を建てる際には専門家を呼び、部屋の配置や方位を注意深く検討する人々がいる。着工時および完成時には、ヴァストゥ・プルシャを祀る祭祀が執り行われる（図5）。神様を祀る祭壇は必ず東向きにし玄関は南向きを避けるといった傾向は、筆者による調査でも確

認されており、このような住居観が今も生きていると感じさせる。また、近年の不動産ブームによる住宅供給ラッシュの中で、ヴァストゥ・ヴィディヤに基づいて建てたことを喧伝する高級住宅も増えている。消費社会化・価値観のグローバル化が進行する現代のインド社会の中で、伝統的価値観が再活性化していると見てよいだろう。

このように紹介すると、やっぱりさすがインドは日本と違い宗教的な伝統が生きているのだな、と思われるかもしれない。しかし日本でも宗教的儀礼を伴う地鎮祭や上棟式はほぼ欠かさず行われており、プランの検討時に家相（特に鬼門）を気にする人は決して少なくない。仏壇や神棚も何とか生きている。もちろん生活の中での意識や身体化の度合いは大きく異なるが、ここに紹介したインドの話は、必ずしも遠い世界の出来事ではないように思う。コスモロジーや儀礼、住居に関する規定は、広漠としたとらえどころのない世界の仕組みを何とか構造化し理解しようという試みであり、それを通じて世界と自分との関係を結び、世界の中での自身の立ち位置を定めようとする試みにほかならない。それは古今と東西を問わず人類が取り組み続けてきたテーマであり、建築や都市の根源的役割の一つである。

●次回は4月号掲載です。

表彰式・講評会・谷尻誠氏記念講演会

第29回東海支部設計競技の内容については、すでに既刊の「ARCHITECT」内で審査結果・受賞作の紹介・受賞者の声とすでに3回掲載されており、今回の報告が実に4回目となります。ここにこの事業の意義が表れているものと思います。また、受賞者の顔ぶれを見ても広域にわたっており、全国的な反響を得た事業であることが伺えます。

■表彰式・講評会

2012年12月8日(土)、厳しい寒風が吹きすさぶ中、名古屋大学ES総合館で開催されました。18点の受賞作品がすべてエントランスホールに展示され、表彰式開催までの間、来場者の交流の場となりました。

1名欠席者があったものの、全18点の作品に対して表彰と講評が行われました。しかし、講評については約1時間強と限られた時間であったため、受賞者による作品説明1分、審査員講評3分と非常にタイトな進行でした。時間内で端的に説明を行う受賞者に対し、その熱意に真摯に応えようとするあまり、審査員の講評時間が大幅に超過することが多く、予定時間内に収まらなかったことは今後の課題とすべきだと感じました。そのため、関係者および聴衆が集まっているこの機会に、双方の応答時間がほぼ得られなかったことも残念でした。



表彰式

■谷尻誠氏 記念講演会

谷尻氏が建築と向き合う際に大切にしていることや、数多くのコンペ案と実作の紹介をもとに講演が行われました。その中で提示されたキーワードを紹介します。

「考えることを考える」：当たり前だと思っていたことについて改めて考えたり、普段気にも留めていなかったことについて考えてみたりする。→ そうすることが新たな建築の提案につながる。

「なまえ」：モノに名前がつけられていることで固定概念に支配されてしまっている。→ ここから解放することによって新たな使い方を模索できる(例えばコップもその名前から解放すれば一輪差しや金魚鉢として捉えることもできる)。「THINK」：広島の実務所3階を「名前のない空間」としてさまざまなイベントに使用している。→ 何と何があれば空間を規定できるか? がテーマで、毎月さまざまな分野で活躍しているゲストを呼んでイベントを開催(アーティストを呼んでライブハウスに、シェフを呼んでレストランに、など)

「星座」：氏が収集している気にかかる数々の画像の紹介。→ 一見、建築には全く関係のないものばかりだが、星が集まって星座となるように、無関係と思われるものをつぶさに読み取る行為の集積が、やがて新たな発想の糸口となる。

「コンペ」：コンペに挑戦しない時期はない。2012年は7作品を応募。うち5点が



谷尻誠さんによる講演

ファイナルへ進み、3点が2等。→ 挑戦し続けることが考え続けることになり、事務所を強くすることにつながる。落選した案の紹介と背景の説明で新たな仕事の獲得につながったこともある。

以上をふまえた結びの言葉は、「決めすぎない」「一見無関係に見えることもすべて建築に結び付けて考え続ける」ことが大事なのではないか、とのことでした。

■懇親会、その後…

講演会後は、同じくES総合館内のレストラン「シェ・ジロー」にて懇親会が行われました。定員45名の店内に60名ほどの参加者が集まり、大変賑やかで活気のある会となりました。受賞者にとっては各審査員を囲んで、作品や将来について対話を交わすだけでなく、受賞者同士の交流の場ともなり、非常に濃厚な1時間半となったようです。

その後は場所を移して2次会へ。引き続き谷尻氏を囲んで、大変有意義な時間となりました。

今回、私は当日の運営からかわらせていただきましたが、私にとっても今後の活動の参考となる大変貴重な体験となりました。次回もこの事業に微力ながら参加させていただきたいと考えています。



中澤賢一 | 堀内建築研究所



レストランでの懇親会

天竜材の未来／地盤改良について学ぶ

昨年12月13日(水)ペガサート7階静岡市産学交流センターにおいて、JIA 静岡地域会役員会終了後、15:30~17:30まで第2回 JIA 塾が開かれました。

参加者は15名。

<内容>

1. 「天竜材の未来と可能性」

(鈴三材木店の取り組み)

- a. 天竜材の理想の光景を描く
 - b. ビジネス拡張の順序
 - c. 鈴三材木店の天竜材プロモーション活動
 - d. 鈴三材木店の考える天竜材のあるべき姿
- 講師：(株)鈴三材木店 鈴木諭氏

2. 「環境保全型地盤改良のすすめ」

- a. セメント改良の弱点と危険性
 - b. 土地の資産価値を下げる地盤改良と下げない地盤改良
 - c. 液状化のメカニズムとは
 - d. 液状化被害を低減させるには
- 講師：グラントワークス(株) 山下英俊氏

1.については、地元浜松で事業を営む鈴三材木店の若社長鈴木氏が、これから

の天竜材の林業と流通のあり方、取り組みについて解説されました。

良い材をPRし利用してもらうために、まず市場調査から問題点と改善点を洗い出し、理想の光景として

○品質基準の確立と一貫した在庫情報の共有

○設計段階から情報共有を行い、計画生産性と品質の向上

を目指すことを目標に上げることになると話されました。これをビジネスに乗せるためにプロモーションを積極的に行い、消費者と同一目線で価値ある商品を提供し、質の向上とコスト管理ができるようになります。そして

○天竜材循環住宅「つながる家」の提案

○遠州バザールで天竜材使用の住宅事例の発信、15棟分の天竜材プレゼント

など、プロモーション活動の実践が、実を結びつつあることなどが紹介されました。これには、建築家との協働作業・提案なども必要な要素となります。

2.では、

○従来の地盤改良では、時として六価クロムによる汚染を生み出しかねないこと

○地盤の液状化対策に対処する必要性

○解体撤去時の地盤面下の費用の問題

○改良による地耐力のデータの必要性、品質の確保

など考慮して、砕石パイルによる工法「Hyspeed工法」の紹介を、液状化の実験など交えて分かりやすく解説されました。

いずれも我々建築設計にかかわる者として構造材と地盤の問題は重要で、常に新しい情報を得る必要を改めて感じました。

18:30から場所をカジュアルフレンチの「Brochette」に移し、賛助会員も交えて1年間の慰労の「忘年会」が開かれました。20余名が参加し、盛況のうちに宵もふけていきました。皆さん、ご苦労さまでした。



清 峰芳 | 清建築設計事務所



会場の様子



懇親を深めた忘年会

紙コップで造形と空間認識、評価まで

昨年12月12日(水)青年委員会の毎年恒例行事である小学校での「建築教室」を行いました。場所は尾張旭市立白鳳小学校、昨年度に引き続き5年生を対象にした、紙コップを使った造形ワークショップです。

前回は児童たちに紙コップを自由に積み上げてもらいましたが、それをじっくり体感してもらう時間があまりとれなかったこともあり、今回は学校側にも授業開始時間を少し繰り上げていただき、さらには立体造形と空間認識への興味をより持ってもらえるよう趣向を凝らしました。

課題として提示したのは4つの平面図形「放射状」「ブロック状」「ライン状」「同心円」。これらを二次元の状態から立体造形になるよう紙コップを積み上げてもらい、最後にみんなで体感し、それぞれの評価までしてもらいます。

1. 全体レクチャー (5分)

紙コップワークショップをこれまで数多く開催されてきた、名古屋市立大学の鈴木賢一先生にご協力していただき手順を説明。(写真1)

2. 図形製作 (10分)

我々JIAメンバーや協力スタッフが事前に体育館の床にマーキングをしておき、4クラスに分かれた児童たちはこれを頼りに前述の4つの図形をそれぞれ用意したロープで床面に二次元製図をします。



写真1 鈴木先生より説明を聞く

3. 紙コップ製作 (50分)

床面のロープに沿って紙コップを積み上げてもらい立体製作。(写真2・3)

児童たちの背丈ほどの高さになると、下段が不安定だと突然崩れてしまうこともあり、どうしたら崩れないようにできるか試行錯誤する風景も見られ、まさにこれが「建築教室」の成果と自負するところ。ロープに沿ってとはいうものの、自由度を尊重することも、見守るスタッフの共通認識としました。

直線的な造形は面として自立するのはやはり不安定で、少しだけ蛇行した形にするのがよいのではという程度のアドバイスはして回りましたが、下段を2列にして足元を安定させた「構造」には驚きました。「造形的」には、頂上部をゴシック様式ごとく尖塔形にしたり、紙コップを鉛直に積まずにただ床に置いて重ねて重ねて大蛇のような形にして遊んでいたりしたのも、その発想力に感心した次第です。

4. 空間体験 (20分)

4つの立体造形ができたところで、自分たちでつくったものと他のクラスが積み上げたものを見比べたり通り抜けたり空間体感。

5. 評価 (5分)

鈴木先生は普段、SD(セマンティック・ディファレンシャル)法という対義になる2つの形容詞で、製作したものを評価



写真2 協力して紙コップを積み上げる

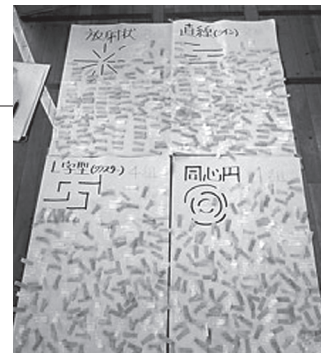


写真4 造形を付箋で評価

しあう手法を用いているとのことですが、今回は小学生向けに色で評価してもらうことに。自分たち、他のクラスがつくった紙コップ造形が直感で何色に感じるかを用意したカラー付箋で評価。

企画側としては、それぞれの造形ごとに色の感じ方による特徴が出るかと期待しましたが、少々漠然としていたこともあり、結果はどの造形も色が交じり合った状態に(唯一付箋の貼り方に違いが見られたでしょうか…。(写真4))

評価の仕方は、次回では反省点として見直しできればと思っております。

6. 片付 (10分)

積み上げたコップを、合図で一斉に崩し倒すのもこれまた爽快。みんなで取り組めば3万個の紙コップもあっという間に片付きます。

授業として2時限もいただいたのワークショップでしたが、児童たちは休憩もせず夢中になっていたのが印象的でした。児童の自由な発想は大人である我々にも刺激あるもので、今回も意義あるワークショップになったと思います。



森本初雄 | moKA建築工房

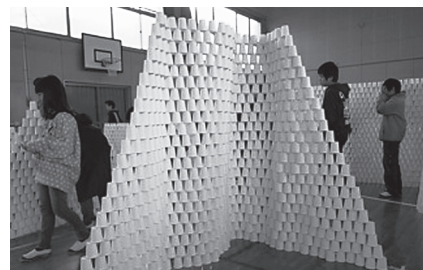


写真3 こんな力作も!

JIA以外の建築家と自作をテーマに交流

11月22日（木）、第2回の「JIAの窓」を開催しました。今回初めて参加の3人を含め会員以外6名、会員5名、合わせて11名の参加者で、自己紹介に続き、6人の方に自作について紹介を頂きました。個人住宅、福祉施設（老人ホーム）、保育園、病院と、それぞれの作品について設計コンセプト、ディテールなどの説明の後、その作品について感想、質疑応答を行いました。いずれも熱い思いが込められた作品で、改めて設計という“ものづくり”に取り組む姿勢を教えられた思いがしました。これからますます、この熱い思いの輪が広がっていくことを願っています。



大瀧繁巳 | 金華建築事務所

● JIA 岐阜の企画に「講演会：建築塾」「卒業設計コンクール」「JIAの窓」があります。JIA 岐阜会員の集まりは高齢化が進み、それゆえに居心地は良いのですが、若手の建築家と語り合うのはやはり楽しいものです。今回は自作した建物の紹介と質疑応答ということで、日頃疑問に思い

つつも聞けなかったことが聞けて、とても有意義でした。“見た目は非常に良いのだけれど長年たつて支障はないのか？

格子の理想の隙間寸法は？ 低価格でやるときのアイデアは？ 吹き抜けの寒さ対策は？”など、質問は計画からディテールにまで至りました。設計者は良かったことも良くなかったことも、仲間の設計者の糧になることを話してくれました。「これを機会にぜひJIAに参加…」とは決して言わないことを会で約束していましたが、その方針でいいと思います。若い建築家の方たちが集い、新しい出会いの機会が提供できれば。次回も新しい出会いに期待したいものです。



村山恒久 | 村山建築設計事務所

● 前回深夜まで語り合ったメンバーに、新しく参加いただいた新顔（といっても、すばらしいキャリアをお持ちのベテラン建築家）の方々と交えて、第2回「JIAの窓」は開催されました。2回目ということもあり自己紹介は手短かにすませ、今回のメインである「自己

作品の紹介」が始まりました。それぞれが自分の作品を1～2点、食事をとり雑談を交えながら、気楽な雰囲気の中で紹介していきましたが、それでも説明が始まると、食事も

そこそこに皆真剣に聞き入り、説明後は活発な質疑応答が繰り返されました。ふだん仕事の話はしても、自分の作品を改めて同業建築家に説明する機会はあまりないのではないのでしょうか。1度にこれだけ多くの人の作品について話を聞いたのは、とてもおもしろい経験でしたし、発表する側としても自分の作品について再度見つめ直せる良い機会になったのではないかと感じました。そして今回もまた、会場を移動し、会は深夜まで盛り上がったのでした…。



山田浩史 | ヒロプランニング

● 若手建築設計者・研究者のフォーラムである「JIAの窓」に、ぎりぎり若者として初回から参加させていただいています。今回は「自作について語る」というテーマで、かんかんがくがく、和気あいあいとした雰囲気の、充実した時間を過ごすことができました。以前より事務所所員の方や同年代の事務所主宰者との繋がりを切望していたこともあり、正直に言いますと当初は多少、先輩風を吹かせながら参加しようという意気込みでした。ところがどっこい、皆さんの熱い思いが詰まった語りに、ただただ圧倒されまくり、感心しまくりのまま今回も終始してしまいました。インプットのみならずアウトプットの必要性もよく言われることですが、この会はまさに、自分の建築に対する考えのアウトプットに最適な場だと思います。「JIAの窓」のさらなる発展に大いに期待します。



桜井裕己 | Meet's 設計工房



食事をしながら、かんかんがくがく


JIA設立25周年記念大会

JIA 建築家大会2012横浜

共に超える

2012年11月29日(木) - 12月1日(土)

YOKO
HAMA
2012
JIA Convention




大会式典の様子

UIA 東京大会から1年余り、JIA 創立25周年にあたる記念すべき全国大会が横浜で開催された。建築の専門家として、社会的役割について市民とともに考える場として、またその役割を果たすためのJIAの課題について語る場として、公益社団法人へ向けての重要な大会となった。

■大会式典・基調講演

大会委員長・室伏次郎氏による開会の挨拶に続き、JIA 会長芦原太郎氏より歓迎の挨拶と公益法人化に向けた意気込みについて語られた。4月からスタートする公益法人はふたつのキーワード「公益寄与」「公益保護」のもとに活動を展開する。公益寄与としては、全国にある10支部58地域会をもとに地域に根ざした安心・安全で持続可能な社会を構築できるように努力すること、一方、公益保護としては会員資格の見直し、倫理規定の徹底、また日本の建築家として国際化に向けた活動など、これからのJIAの向かうべき方向を指し示した。また、このような場で、広く一般市民の方々と一緒に考え、意見を交わし方向を見つめていきたいと、大会における姿勢を示した。来賓の挨拶に続き、上波寛大会実行委員長からプログラムの概要について説明があり、大会式典は滞りなく終了した。

引き続き、法政大学社会学部教授である田中優子氏から「『足るを知る』の江戸時代」と題して基調講演をいただいた。3.11以降、経済成長神話が崩壊した。このことを何も疑わずして生きてきた人々には混迷が生じている。その多くが社会において指導的立場にある人たちであることが問題だ。「足るを知る」とは、江戸時代の言葉で「これでちょうどいい、十分

だ」という考え方である。江戸時代の社会は完全循環システムが存在し、無駄なく生活できていた。現代において有限な資源を浪費することなく、持続的エネルギーのみを頼りに生活し社会化するとしたら、第1に地球資源の有限性を認識すること、第2に「始末」。使い捨ては資源の無駄遣いである。第3に廃棄が環境汚染であると認識すること。江戸時代的的社会構造は、やる気さえあれば取り戻すことはできる。今ある経済構造にしがみつくことから変えてゆき、江戸から学び現代生活に応用できることはいくらかもある、といった内容であった。

基調講演を受け、山崎亮氏、芦原太郎会長が加わりパネルディスカッションに移った。山崎氏は、地縁コミュニティに新しいコミュニティが生まれるかなど、プログラムの仕組みを考え、プロジェクトの計画に携わるコミュニティデザイナーである。江戸時代に戻ることは難しいが、人とのつながりを取り戻すことは可能であると、自身の精力的で多岐にわたる地域活動を紹介された。芦原会長も地域に根ざし、人とのつながりを重視した環境づくりをUIA 世界大会でも建築まちづくり宣言として掲げていることを紹介。「巨匠→調停者、作品→運動体、啓蒙→対話」、建築家はどのようにシフトし、建築を完成品ではなく、市民とともに作り続けるものとし、建築家の活動を通じて文化の形成に寄与していきたい、とパネルディスカッションを締めくくった。



江川静男 |
ヴァイスプランニング(静岡)

■一般公開シンポジウム

「フクシマからの提言」

建築家は人として何をすべきか？

JIAにおいて何をすべきか？

11月29日、まずは第13回JIA 環境建築賞の公開審査に挑みました。夕方からはオープニングパーティーに出席し、全国のJIAの仲間たちとの再会を喜びました。翌30日の午前中に行われた一般公開シンポジウム「原発ゼロ、安全な暮らしを求めて フクシマからの提言」に参加してまいりました。司会は福島地域会の阿部直人氏です。

まずは同会の三坂恭一氏より福島第一原発近郊の浪江町のショッキングな近況報告がありました。次に、福島県三春町の里山で暮らしていらした福島原発訴訟団の団長である武藤類子さんよりご講演がありました。今でもフクシマでは1日あたり3,000人の作業員が働いているが状況は好転していないこと。自然の中での生活が、今では窓の開けられない生活に変わり果ててしまっていること。それどころか安全神話を復活させようという動きや、原子力利用を推進するIAEA(国際原子力機関)が福島に事務所をつくるなど、ますます不安な方向に進んでいること。26年間反原発にかかわり一番思うことは「原子力利用はウランの発掘から被曝が前提とされていて、人の命の犠牲と差別によって成り立っている」ということでした。愛する自然を奪われた無念さが滲み出たお話でした。

続いて、原発の立地する全国の8地域会の代表に、武藤氏、東北工芸大の竹内昌義氏を加えたメンバーでシンポジウムが始まりました。コーディネーターはJIAマ



「フクシマからの提言」の会場

ガジン編集長の古市徹雄氏です。

鹿児島からは原発によって街が潤う状況が、島根からは反原発の発言をすると「ロウソクで生活しろ」と言われる、新潟からは「柏崎で甲状腺ガンが発生している。福島の子供が心配」とのこと、静岡からは津波予測が19mなのに18mの防波堤をつくっている浜岡の話、原発と処理工場（六ヶ所村）、中間貯蔵施設（むつ市）を抱える青森からは「原発をよく知ることから始める」、福島からは「子供の命をつなぐという当たり前のことを国が破った」などの意見が出されました。竹内氏からは、エネルギーにかかわる建築家の役割は大きく、政治に左右されるのであれば建築家は政治に発言をしていく必要があり、「建築家としてすぐに活動すべきだ」との熱い発言。古市氏は「反原発を明言している建築家は少ない。言いにくい状況にあるのでは？」と最後まで意見をまとめるのは難しいようでした。

今こそ私たち建築家は、人として意見表明をすべきです。日本建築家協会としてはいろいろな利害があり意見表明するのは難しいのでしょうか。しかし、本当にこれでいいのでしょうか？

質疑の時間に東京都市大学の宿谷昌則氏より、今までの活動が原発事故に対していかに無力だったか後悔の念を述べられる感動的な場面があり、会場からは拍手が起こりました。



吉元 学 |
ワーク・キューブ (愛知)



武藤類子さん(左)と竹内昌義さん

■シンポジウム

「建築家資格制度の目指すところ」 社会から信頼得る制度を望む

私は、気が付いてみれば入会した2000年当時から、ほぼ毎年全国大会に参加しています。なぜ参加しているのかと聞かれば、知らない街を知り、地元の美味しい料理を頂き、おまけに素晴らしい建築と出会える絶好の機会だからだという分かりきった答えになるかも知れませんが、妙な魅力に取りつかれたというのが本音のところでは。

大会に参加するたびに、主催されている地元建築家は大変な労力と時間を費やしておられるのを感じますが、そのおかげで展示やシンポジウムに参加でき、普段、殻にこもりがちな我々が世の中の情報を生でキャッチできる絶好の機会にもなります。百聞は一見にしかず！これが大会の目的でもあります。

一つ参加したシンポジウムの内容を報告します。私は、「建築家資格制度の目指すところ」の第2部から参加しました。1部は資格制度のスタートから現在に至る経過報告、2部は各支部の制度に対する反応や、参加者からの意見を聞くというものでした。

支部や参加者からは、現行制度に対する矛盾点や不備な点の指摘が多く出されてきました。例えば、実務訓練の制度を設けても、それをフォローする仕組みが整えられておらず投げっ放しだという意見がその本質を物語っていました。考えてみれば会費を値下げしたときもそうですが、入口をつくっても、どう完成させるのかという出口をつくっていないために仕組みができていない、今の資格制度にも同じことが



上：「建築家資格制度の目指すところ」



下：建築家の住宅模型展

言えます。結果的に2会の資格制度の折り合いもうまくいっていないようです。それもそのはずで、こちらが上だ下だといっていると、どこまでも平行線のままでしょうし、今の資格制度の立ち位置が、国や建築士というライセンスの基準と考えると照らし合わせても、同等と考えるのには無理があるかも知れません。

しかしJIAには夢と志があります。

まず我々は、すでにある資格制度の骨格に落ちがないことを確認し、会員や社会から見て信用されるに足る素晴らしく魅力的な制度をつくり上げることが先決であり、2会合意はその後の話になるのではないかと思います。

また、将来的に国にも認められ、建築家制度ができうるならば、現行の制度を廃止し一旦資格を投げ打ってでも、新たな枠組み制度の中で再審査されてライセンスを頂くというくらいの気構えと志が必要だという思いでいっぱいです。現行制度の延長ではなく、時が来れば新たに国と協議して資格制度をつくるという仕組みが、私のロードマップです。

100歩で達成する夢を99歩であきらめないようなJIAを期待します。



久保田英之 |
久保田英之建築研究所 (愛知)

JIA 東海大会2012 in 伊賀



秘蔵の國から、ヒト・モノ・コトを考える

10月27日(土)

13:00~15:00 大会式典

基調講演「風土と歴史を継ぐ建築」

講師 | 栗生明氏(建築家・千葉大学大学院教授)

15:15~16:45 パネルディスカッション

「地域文化とこれからのまちづくり」

パネリスト |

福井健二氏(中世城館と上野城の研究者)

北出楯夫氏(地域誌「伊賀百筆」編集長)

馬岡裕子氏(芭蕉翁記念館学芸員)

コーディネーター |

高橋徹氏(JIA三重会員)

17:00~18:30 Mieシャレット

「コミュニティアーキテクトの役割」

コメンテーター |

東海支部長や各地域会代表+参加者全員

コーディネーター |

奥野美樹氏(JIA三重会員)

19:00~20:30 レセプションパーティー

展示コーナー |

JIA 東海支部設計競技応募作品展

「三重の建築散歩」展

賛助会建材展

10月28日(日)

エクスカーション |

伊賀の町並みウォッチング

伊賀の伝統文化体験



会場となったヒルホテルサンピア伊賀

今回の支部大会は、伊賀上野にて開催されました。参加締切りの時点では60名余りの申込みしかなく、村林桂実行委員長と随分心配したものでした。最終的には鳥居久保支部長、水野豊秋幹事長の多大なるご協力により、100名を超える参加者を得て、盛大に開催することができました。心より厚く御礼申し上げます。

開催にあたっては地域会員、賛助会員の皆さんには大変な負担をかけることとなりました



受付風景

が、ホストとして精一杯努めさせていただいた結果、大会としてはまずまずの出来ではなかったかと満足しているところです。また、大会の内容もさることながら、実行委員長を筆頭に地域会員、賛助会一体となって開催準備に参画していただいたことが、最大の収穫ではなかったかと思っています。



松本正博 | 上野建築研究所

大会式典

10月27日(土)快晴。ヒルホテルサンピア伊賀、白鳳の間における大会式典を皮切りに2日間の大会がスタートした。まず、村山邦夫支部大会特別委員長が開会挨拶を行った。「今回は『継』というテーマに沿い、基調講演やパネルディスカッションを企画しています。秘蔵の國での大会にふさわしい趣向も用意しているので2日間十分に楽しんでください。」

次いで鳥居久保東海支部長が「『継』というテーマは現代的なテーマである。地域建築家は地域性をこの先どのように仕上げていくかが大きな課題である。この大会で大いに議論していただきたい」と訴えられた。

来賓として、開催地である伊賀市産業建設部建築住宅課長の祝辞があり、「支部大会が伊賀で開催されることはまことに喜ばしい。伊賀市の街並みや食文化を堪能していただきたい」と述べられた。

最後に芦原太郎JIA会長が「地域に根ざした建築家が、地域の中でどのような役割を果たせるかが大事な問題である。役に立てる建築家や役に立てるコミュニティアーキテクトを実践していかなければならない。地域の中で市民と一緒に地域を考える。そのような活動がJIAの魅力になる。また、建築だけでなく、地域の環境を維持管理する業務も建築家が携わるべきである」と語られた。



西出 章 | 森永建築設計事務所

基調講演

「風土と歴史を継ぐ建築」

栗生 明氏

“建築家は、ほとんど詐欺師だ”とは、泉真也氏の言。建築設計の仕事は、依頼者が成果を検討できぬうちに、契約して始められる。成果に依頼者が満足すれば詐欺でなく、納得しなければ詐欺呼ばわりされかねない。

例えば、住宅の依頼があれば建築家はまず世界地図を眺め、そここの住宅を意識し、40数億年前からの地球の歴史を振り返る。壮大なストーリーを作り、建築の実現に向けて全力で取り組む。このストーリーを作るうえで、「継」は大変重要なキーワードである。

盆に載った、唐津焼の茶碗の画像。盆の板はチギリで継がれ、茶碗に「金継ぎ」が見られる。物を継ぐには継ぎ目を目立たせないのが一般的だが、ここでは継ぎ目が目立ち景色、装いとなる。金継ぎの一種に「呼び継ぎ」があり、異なる茶碗の部分を継ぐ。それは新しい創造となり、それを愛でる茶の文化がある。金継ぎに蒔絵を施す「蒔絵直し」は、例えば梅が描かれた割れ徳利に蒔絵直して松と竹を描くと、直しながら松竹梅となる洒落を成す。「継」による豊かな世界である。

続いて、自作と古今東西の建築の画像を見ながら、「継」が語られた。まず、富山駅前に隣合うオーバード・ホールと高層事務所ビルとの二つの別々で大きな建



村山邦夫氏



鳥居久保氏



芦原太郎氏



栗生明氏



福井健二氏



北出楯夫氏



馬岡裕子氏



高橋徹氏

物がある。これらをうまく調整する課題に対して、二つの建物の足元を下屋で継いで一体化して新たな空間を成した。

「桐蔭学園メモリアルアカデミウム」では、TVドラマ「私は貝になりたい」の舞台となった横浜地方裁判所特号法廷を新しい鞘堂に入れ込み、移築・保存・活用。

このほか、時間を継ぐ「オルセー美術館」や現代のガラスのピラミッドと歴史的建築物を継いだ「ルーブル美術館」、C.スカルパによる「カステルヴェッキオ美術館」の改修、ドイツの近代産業遺産の古い工場跡地の風景に新しい物を注入しながら歴史を継ぐ「エムシャーパーク」、「村野藤吾自邸」での、河内の民家を移築して約半世にわたって村野流に翻訳し直された、しょっちゅう手を入れた継ぎ接ぎだらけの随所にみられる本歌取りや写しなど、「継」ぐ手法が解説された。

「平等院宝物館鳳翔館」は、既存の良好な景観を、建築の形態や構成を工夫して次代に継ぐ。「国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館」は、人の記憶を継ぐ。「かなみ仏の里美術館」では、平安時代の仏様をきちんと保管し次代へ継ぎ、「式年遷宮記念せんぐう館」は、今後も遷宮ができるのか、継ぐ上での危機感にこたえた建築。

以上、大切な物事を時間空間軸で「継」ぐ、意味やヒト・モノ・コトが濃密に語られた。

池澤邦仁 | 池澤アソシエイツ



パネルディスカッション 「地域文化と これからのまちづくり」

●パネリスト

福井健二氏 (中世城館と上野城の研究者、
伊賀文化産業協会専務理事)

馬岡裕子氏 (芭蕉翁記念館学芸員)

北出楯夫氏 (地域誌「伊賀百筆」編集者)

●コーディネーター

高橋 徹氏 (JIA 三重会員)

福井氏：上野城は、伊予から転府した藤堂高虎が慶長16年(1611)、大坂方に対する前線基地として築き始めたもので、嵐のために5層の天守閣は完成を見なかったものの、そのとき構築された高石垣は日本有数の高さを誇っている。また城の東西には21間の大手門を構え、城外には商人を集め碁盤の目状のまちづくりをした。本城のある津と結ぶ伊賀街道の整備を進め、城下は発展した。現在の天守閣は昭和17年(1942)、代議士川崎克により木造で復興されたもので、戦火を免れた街は当時の町割りをそのまま受継いでいる。

馬岡氏：芭蕉は、正保元年(1645)伊賀に生まれ、13歳で父を亡くし、藤堂新七郎家に料理人として奉公、主人良忠と共に京都の北村季吟に俳諧を学んだ。良忠が若くして死亡したため、江戸に出、元禄2年(1689)46歳で奥州へ旅立ち「奥の細道」を書く。この作品は後に編集された文学作品である。芭蕉は漂白の詩人と呼ばれ、や

さしい言葉で人生の喜怒哀楽を句にしたためた。芭蕉の命日10月12日には芭蕉祭を行い、全国から寄せられた俳句を披露し、芭蕉ゆかりの都市との交流も続けている。

北出氏：伊賀は文芸活動の盛んな町であり、「伊賀百筆」は平成5年(1993)に誕生した地域文芸誌である。10号までは地元企業の支援によって発刊されたが、それ以降は自主運営でスポンサーを募って発行している。文芸作品の紹介にとどまらず、「ものを言う」雑誌として、現在22号まで発刊されている。特に20号からは、価値ある建築は文化として継承すべきものとして、市が一方向的に進める新市庁舎の建設に対して「市民ととことん『熟議』を尽くしたか？」と問題提起を投げかけ、庁舎の保存を訴えてきた。

[まとめ]

高橋氏：伊賀は秘蔵の國と言われ独特の文化が育まれてきた。その文化の表れが、今に残されている建築でもある。伊賀にある上野城、上野高校明治校舎、俳聖殿など私たちの身近な風景そのものが地域文化である。ものづくり、まちづくりにかわる者の務めとは、先人が培った心と知恵と技を残して、次の世代に伝えることであると思う。本日のパネリストの方々は、それぞれの立場で地域文化を継承していただいている方々でもある。

滝井利彰 | タック設計室



Mieシャレット 会場を巻き込み議論

「シャレット」とは、フランス語で都市デザインやまちづくりで行われるワークショップ手法のひとつ。専門家が短期間に協働して課題を検討し、解答の提案をすることだそうだ。

コメンテーターに基調講演の講師、栗生明氏、鳥居東海支部長、各地域会から1名ずつ代表（静岡：高橋雅志氏、愛知：吉野勝己氏、岐阜：山田貴明氏、三重：萩原義雄氏）が選ばれ、コーディネーターは三重地域会 奥野美樹氏が務めた。

今回のキーワードは「コミュニティアーキテクト」である。鳥居支部長は、地域の気候・風土・文化を読み込み、それを建築家のフィルターを通して再構成する力が求められる、また、その地域には建築やまちづくりに造詣が深い市民がいて、まずはその人たちを説得しなければいけない、それもコミュニティアーキテクトなのでは、と議論の口火を切った。

栗生氏からは、住まいであり、事務所の所在する文京区とのかかわりが語ら

れた。JIA文京地域会長としての活動は、地域に根差すことを目指したもので、一地域としての東京を感じさせるものであった。

次に各地域会から。「スローライフ掛川」の10年間の活動について静岡の高橋氏から紹介があり、建築家をより身近に感じてもらうような活動でもあるとの発表。愛知の吉野氏からは祭りにスポットをあてた離島のデザインサーベイの活動、岐阜の山田氏からは、生活文化の三要素である衣・食・住の住について、日本には建築の保存・再生・活用のノウハウが少ないこと、三重の萩原氏からは、「みえ木造塾」9年間の取り組み、三重の建築を紹介する冊子「三重の建築散歩」の取材にまつわることなどが紹介された。

和やかな雰囲気の中で会場を巻き込みつつ、さらなる議論が進められた。その中で印象的な単語を紹介すると「町医者的な存在」「地域活動」「市民との距離を縮める」「公益法人化」「プロ意識に裏付けられ



議論の様子

た視点」「生業としてのコミュニティアーキテクト」「繕う」などで、広範囲にわたって議論されたことが分かる。また、それぞれの建築家が地に足を付けて各コミュニティに入り込んで奮闘している状況が紹介され、各会員間で共有されたことも大きな成果となったに違いない。

最後の栗生氏の「建築家は本来つなげることが得意なはず。埋もれているものを発見し、どう活用するか提案していく時代になった。物語をつくり、人を惹きつけつなげていくことが大切」との言葉が印象的であった。

中西修一 | shu建築設計事務所



●レセプションパーティー

松本正博三重地域会長の歓迎挨拶の後、小田義彦前東海支部長の乾杯によりレセプションパーティーは始まった。乾杯の余韻もさめないうちにアトラクションが始まる。伊賀忍者集団「阿修羅」による忍者ショーである。彼らは、テレビなど多数のメディアに出演しているのも既知の方も多であろう。海外でも定評である彼らの立ち回りに圧倒された参加者は、飲食するもの忘れがちであった。

JIA三重地域会伊賀会員の「伊賀に来たからには地場のうまいもんを十分に食べていただく」という趣向から、会場には伊賀牛、でんがくの屋台が出店。さらに、地酒の数々が並べられたテーブルが設置された。参加者は大いに歓談し、その後2次会へと流れていった。

西出 章 | 森永建築設計事務所



忍者ショー

●展示コーナー

「JIA東海支部設計競技作品展」のブースでは、第29回の入賞作品パネルが展示された。

「賛助会建材展」では建材展示とカタログ配布によるJIA三重地域会賛助会のPRコーナーが設置された。参加者は各ブースの担当者の説明に熱心に聞き入っていた。

「三重の建築散歩」展では、現在三重地域会が発刊に向けて執筆中である冊子の中間報告という形でパネル展示が行われた。これまでJIA三重地域会の会員が取材してきた三重の建築や景観を一般の人々に分かりやすく伝えることを主眼として単行本にまとめる予定である。2013年2月下旬に出版予定であるが、見応えのある冊子になると自負しているので、お早めのご予約をお願いします。

西出 章 | 森永建築設計事務所



展示コーナーの様子

エクスカーションA

伊賀市旧市内の街並みを見て歩く

ガイドは、会員で伊賀出身の滝井利彰氏。伊賀について精通されており、そのガイドには定評がある。まず「芭蕉翁記念館」へ。パネルディスカッションのパネリスト馬岡裕子氏に解説していただき、展示を見ただけでは分からない芭蕉の気持ちや弟子の心づかいを物語のように語ってもらった。

「俳聖殿」は、芭蕉の箕の傘を形取った特徴的な外観をした建物である。今回は滝井氏の計らいにより内部も見せていただいた。地元の人でも滅多に内部に入ったことはない。扇垂木状に組まれた内部の柱梁の仕口は複雑な組み手をしており、昔の職人の技に改めて感服した。

公園内を通り抜け伊賀上野城へと向かう。堀の水面から高さ30mある石垣上に立つと、その高さに足下がふるえる。

公園を下ると、三重県指定文化財である

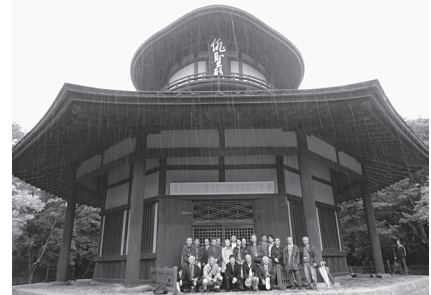
「上野高等学校明治校舎」がある。各教室は現在も使用されている。天井は非常に高く、扉の彫刻は当時のまま。学生が愛着を持ってこの建物を大切に使い、勉学に励んでいるのを想像すると心が温まる。

隣接するのは「崇廣堂」。この建物は昔の藩校である。昭和の時代には私立図書館として利用されていた。保存修理を終えて現在もイベントなどに利用されている。

お昼は、近くの田楽座「わかや」にてでんがく料理。甘みある味噌たれがかかった豆腐でんがくだけでお腹がいっぱいになる。

午後は、街並みを散策。保存修理を終えた武家屋敷「入交家住宅」に、「上野菅原神社」「芭蕉生家」、その後「伊賀市役所」を一周した。坂倉準三氏設計の庁舎である。北庁舎は解体され面影は皆無である。

参加者には、古い時代から現代までの伊賀における建築事情を目の当たりにして地域性を十分に肌で感じていただけたのではないだろうか。西出 章 | 森永建築設計事務所



上 | 「芭蕉翁記念館」にて 中 | 雨の中、「俳聖殿」にて
下 | 「上野高等学校明治校舎」

エクスカーションB

伊賀の伝統文化体験

伊賀市丸柱は市北部に位置する。田園風景が広がり、ゆったりとした空気が流れ、山の木々や田の香りに満ちた気持ちのいいところである。伊賀焼はこの地に起こり、その後付近の数カ所の村に及んだそうである。

まずは、開窯から今年で180年を迎えたという伊賀焼の「長谷園」で、昭和40年代まで稼働していた「16連房旧上り窯」と大正時代の旧事務所の「大正館」を見学させていただいた。これらは昨年、国の登録有形文化財に登録されたものである。

7代目当主である長谷優磁さんのお話を聞くことができた。1995年の阪神・淡路大震災により、重量のある外装タイルを危惧する声が増してキャンセルが相次ぎ、会社存続の危機が訪れた。しかし、東京から長男が戻り、きょうだいも次々と「長谷園」にかか

わっていくことになり、まさに家族が一丸となって今の「長谷園」を築き上げられたとのこと。現在では東京に土鍋をメインとしたアンテナショップをオープンするほどまでになり、去年はニューヨークのギフトショーにも出展されたそうである。

次に、伊賀焼伝統産業会館で陶芸体験をした。ものづくりは楽しい。参加された皆さんの顔は土いじりをする童顔の表情そのもの。後に、参加された方から「つくる楽しみと、焼き上がって完成したのを見る楽しみと2度楽しめたよ」と言っていただいた。ありがとうございました。

最後に、伊賀といえば「忍者」ということで伊賀上野へ移動し、「伊賀流忍者博物館」のいろいろなからくり部屋を見学した。からくり部屋は建築設計に使えるディテールの宝庫であった。

川崎貴覚 | 川崎建築設計室



上 | 「16連房旧上り窯」を見学
中 | メインイベントの陶芸体験
下 | 参加者で記念撮影



大会を終えて

●すばらしい、伝説の大会

支部大会は4地域会持ち回りで隔年開催してきており、三重では2003年宮川村大会以来9年ぶりになります。本来2011年が三重地域会の当番でしたが、UIA東京大会の年となり、それに会員の多数参加を呼びかけるため、三重での開催は2012年に延期という経緯がありました。

前回の宮川大会では実行委員長の命をうけ、実行委員の皆様のおかげで「伝説の宮川村大会」とお褒めをいただきました。今回は特別委員長の大役を頂きながらも、実行委員会にあまり参加できず、大会

の開会宣言だけになってしまいました。

村林桂実行委員長の下、三重の若き精鋭たちが9カ月余り議論を重ね、「継」をテーマに、伊賀独特の地域性を出した大会にしようと、皆で考え合ってきました。個人的にも伊賀は休日の散策コースのひとつでよく訪れていますが、伊賀焼き、伊賀肉、忍者、芭蕉くらいの知識しかありませんでした。

この地域は古来「秘蔵の國」と称され、独特の文化と歴史を持つ地域での大会開催は見聞を広めるよい機会でもありました。パネルディスカッションでは地元伊賀の文化人を交えて、「ヒト」「モノ」「コ

ト」を通じて地域文化と建築、町を議論しました。地元のパワーが今もこの地域特有の文化を形成しているのだと痛感しました。

百数名の参加ではありましたが、充実した、すばらしい大会になりました。参加された皆様、地元のお世話になった方々、実行委員の皆さんに感謝申し上げます。

「東海大会2012 in伊賀大会」もまた伝説の大会になったようです。



大会特別委員長
村山邦夫 | アーキ設計

●委員の協力に脱帽、感謝

2012年3月の初旬に東海支部大会の実行委員長に指名されて以来、重責を感じながら準備委員会、実行委員会と12回にわたる会議を重ねてきました。

UIA東京大会により開催時期が1年延期となったため、支部や地域会の役員組織入れ替わりの年と重なり、本来1月頃から取り組むべき準備が遅れてしまったことに気付いて「これは大変なことを引き受けた」と不安と焦りのスタートでした。

しかし、松本正博地域会長をはじめとする強力な実行委員会のメンバーによって、テーマやプログラム、準備態勢が順調に協議され、無事開催に漕ぎ着けることができました。個性豊かな委員がそれぞれの思いにこだわりながら一致協力して取り組んだプロセスには、脱帽と感謝の気持ちでいっぱいです。

さて、大会テーマの「継」をベースに組

み立てられたプログラムでは、「地域」「風土」「建築」「文化」「ひと」「もの」「こと」などのキーワードを手掛かりに基調講演、パネルディスカッション、Mieシャレットが企画されました。また、伊賀を体で感じてもらう企画として、レセプションパーティー、2コースのエクスカージョンを「おもてなし」の心で準備しました。皆さん、楽しんでいただけたでしょうか。

エクスカージョンAコースでは、地元の滝井利彰会員のレクチャーにより、伊賀の町並みと建築の歴史を学ぶことができました。最後に訪れた坂倉準三設計の「伊賀市役所南庁舎」は取り壊し目前で、その姿を惜しむように見学しました。ところが、この日からわずか2週間後、市長選挙の結果、保存する方向になったという朗報が届きました。まさに貴重な昭和の名建築を次世代に「継ぐ」方針が市民の選択によって実現したわけで、偶然ながら、この時期にこの地で大会を開催できたことに大変意義深いものを感じます。

こうして、2012年の東海大会は、支部や地域会の実行委員会の方々、参加いただいた101名の会員、賛助会員、事務局の皆さんのご協力により、無事に幕を閉じることができました。本当にありがとうございました。また、大会テーマに沿った内容で素晴らしい講演をいただいた講師やパネリストの方々には、心より感謝申し上げます。

今回の大会を終えて感じたことは、地域社会にもっとオープンな大会にできればさらに良かったのではということでした。公益法人になるJIAの今後の活動として、地域の市民や行政、学生などと協同しながら、建築家の存在と役割を一般社会に発信する大きな機会として東海大会を位置づけていただくことに期待します。



大会実行委員長
村林 桂 |
村林桂建築設計事務所

〈大会記録〉

実行組織表、実行記録、参加人数、大会収支

■実行組織

- 特別委員会 委員長 村山邦夫
委員 鳥居久保、水野豊秋、尾林孝雄、鈴木利明、長尾英樹、松本正博、村林 桂
- 実行委員会 委員長 村林 桂
副委員長 池澤邦仁、滝井利彰
実行運営委員 伊藤達也、奥野美樹、川崎貴覚、木下利子、出口基樹、豊田由紀美、中西修一、西出 章、萩原義雄、久安典之、松本正博、森本昭博、長谷川利敦

■実行記録

- 支部役員会
- 8/3 日程、会場、テーマ報告
- 9/7 プログラム、予算報告、承認
- 9/28 申込登録状況確認、呼びかけ強化
- 大会特別委員会
- 9/7 プログラム、予算報告、承認
- 大会実行委員会
- 3/23 第1回準備委員会 開催日時、委員会構成の決定。
大会方針とテーマ、実行委員会スケジュールを協議
- 4/10 第2回準備委員会 担当者の決定、大会方針とテーマ、大会プログラムを協議
「ARCHITECT」5月号 おしらせ第1回掲載記事投稿
- 5/18 第1回 大会テーマの決定。基調講演、大会イベントを協議
「ARCHITECT」6月号 おしらせ第2回掲載記事投稿
- 6/1 第2回 基調講演講師の決定。パネルディスカッションパネリスト、時間割を協議
「ARCHITECT」7月号 おしらせ第3回掲載記事投稿
- 7/6 第3回 サブテーマの決定。基調講演、パネルディスカッション、Mie シャレット、レセプションパーティー、エクスカージョン、展示コーナー、予算案を協議
- 7/20 第4回 パネリストの決定。基調講演、パネルディスカッション、Mie シャレット、レセプションパーティー、エクスカージョン、展示コーナー、登録料、宿泊予約、記念品、予算など協議
「ARCHITECT」8月号 おしらせ第4回掲載記事投稿
- 8/7 第5回 式典進行、基調講演、パネルディスカッション、Mie シャレット、レセプションパーティー、エクスカージョン、展示コーナー、会場設営、宿泊、予算、交通など協議
「ARCHITECT」9月号 大会募集案内投稿
- 8/24 第6回 予算、レセプションパーティー進行、二次会、「ARCHITECT」10月号案内内容など協議
- 9/5 第7回 来賓、案内状、記念品、予算、エクスカージョン、リーフレットデザインなど協議
「ARCHITECT」10月号 大会詳細案内投稿
- 9/21 第8回 会場視察、参加申込み状況、記念品、会場設営、宿泊、報道機関広報など協議
リーフレット完成、「ARCHITECT」10月号に同封
- 10/12 第9回 参加申込み状況、当日担当割、イベント進行確認、展示コーナー配置確認、記録担当割など協議
- 10/17 第10回 会場視察、参加申込み状況、受付、イベント、宿泊、交通、当日担当配置など確認
- その他担当ごとに数回の会合をもつ

■参加人数 (基本登録・地域別) ※他にボランティア参加・当日参加あり

	会員	賛助会員	一般	合計
静岡	12	0	0	12
愛知	38	8	0	46
岐阜	4	3	0	7
三重	24	10	0	34
他	2	0	0	2
合計	80	21	0	101

■JIA 東海大会2012in伊賀 事業決算書

(2012/12/21 実行委員長 | 村林 桂 作成 | 経理担当 奥野美樹)

(収入の部) (金額単位 円)

勘定科目			金額	金額	金額	備考
大科目	中科目	小科目	9/5 予算	決算	比較増減	
負担金収入	東海大会参加費		2,168,000	1,477,000	(691,000)	
		大会参加費	730,000	564,000	(166,000)	
		懇親会費	560,000	476,000	(84,000)	
		エクスカージョン参加費	240,000	147,000	(93,000)	
		宿泊代預り金	578,000	270,000	(308,000)	
		その他	60,000	20,000	(40,000)	祝儀
	支部負担金		700,000	570,029	(129,971)	
		大会負担金	700,000	570,029	(129,971)	
収入合計			2,868,000	2,047,029	(820,971)	

(支出の部) (金額単位 円)

勘定科目			金額	金額	金額	備考
大科目	中科目	小科目	9/5 予算	決算	比較増減	
支出	事務		230,000	156,134	(73,866)	
		運営会議費	75,000	99,560	24,560	
		運営会議費用交通費	45,000	42,460	(2,540)	
		講師折衝費用	60,000	0	(60,000)	
		印刷代	30,000	11,460	(18,540)	
		通信費	10,000	240	(9,760)	
		事務雑費	10,000	2,414	(7,586)	
	企画		395,000	187,000	(208,000)	
		リーフレット他	200,000	63,000	(137,000)	
		記録報告書作成	5,000	5,000	0	
		登録者ストラップ	75,000	101,155	26,155	
		手提袋	75,000	0	(75,000)	
		配布資料	30,000	13,200	(16,800)	
		雑費	10,000	4,645	(5,355)	
	大会		1,270,000	1,134,521	(135,479)	
		会場設営費	338,000	297,000	(41,000)	
		レセプション	627,000	569,045	(57,955)	
		アトラクション	150,000	150,000	0	
		講師料	120,866	95,766	(25,100)	
		雑費	34,134	22,710	(11,424)	
	宿泊	宿泊費	578,000	216,000	(362,000)	
	エクスカージョン		360,000	195,750	(164,250)	
		JIA東海支部 コンペ作品展示	10,000	1,470	(8,530)	
		建築散歩展示	25,000	5,220	(19,780)	
		賛助会展示	0	150,934	150,934	
支出合計			2,868,000	2,047,029	(820,971)	
収支結果			0	0	0	

第44回 中部建築賞 入賞・入選・特別賞作品

主催：中部建築賞審議会

応募数は一般建築部門55点、住宅部門58点の計113点(昨年は111点)であった。9～10月にかけての第1回審査、現地審査、第2回審査を経て、入賞、入選、特別賞の合計22点が決定した。

審査員(順不同、敬称略)

新居千秋(審査員長/建築家)

井澤知且(名古屋学院大学教授)

川口亜稀子(建築家)

貴志雅樹(富山大学教授)

熊澤栄二(石川工業高等専門学校准教授)

菅原洋一(三重大学大学院教授)

清 峰芳(建築家)

富田真知子(建築家)

一般部門

①所在地 ②建築主 ③設計者 ④施工者 ⑤構造・規模 ⑥延床面積
※住宅部門は②は表記せず

入賞作品



名古屋科学館新館

①名古屋市 ②名古屋市 ③(株)日建設一級建築士事務所
④竹中・TSUCHIYA・ヒメノ特別JV ⑤S造 地下2階
地上9階 塔屋1階 ⑥15,735.19㎡



森のオフィス

①三重県松阪市 ②(株)アクアブランネット ③
SUGAWARADAISUKE一級建築士事務所、北村組付属一級建
築士事務所 ④(株)北村組 ⑤S造 地上1階 ⑥348.01㎡



SOLA 上野ガス 亀山営業所

①三重県亀山市 ②上野ガス(株)
③(株)木津潤平建築設計事務所、リズム・デ
ザイン、環境設備計画
スタジオランナー一級建築
士事務所、h+de-
sign/architect
④上野ハウス(株)
⑤S造 地上2階
⑥499.87㎡



金沢海みらい図書館

①金沢市 ②金沢市 ③堀場弘+工藤和美/シーラカンス
K&H ④戸田・兼六・高田特定建設工事JV ⑤S造 一部
RC造 地下1階 地上3階 ⑥5,641.90㎡

入選作品



豊田市自然観察の森ネイチャーセンター

①愛知県豊田市 ②豊田市 ③(株)遠藤克彦建築研究所 ④熊
谷・斎藤建設JV ⑤S造 一部RC造 地上2階 塔屋1
階 ⑥1,354.27㎡



いなべ市立員弁西小学校

①三重県いなべ市 ②いなべ市 ③(株)石本建築事務所名古屋
支所 ④TSUCHIYA(株)、中日本建設(株) ⑤RC造 一部S
造 地上2階 ⑥6,829.31㎡



WOOD(ずだじこども園)

①静岡県浜松市 ②学校法人頭陀寺学園 ③(株)ナウハウス
④(株)杉浦建築店 ⑤木造 一部RC造 地上2階 ⑥
997.43㎡



富山県広域消防防災センター (富山県消防学校・四季防災館)

①富山市 ②富山県 ③東畑建築事務所・鈴木一級建築士事
務所JV ④近藤建設・相澤建設・松原建設JV、砺波工業・
前田建設JV、辻建設(株)、北陸電気工事・大浦電業JV、(株)立
山農園、(株)丹青社 ⑤RC造、SRC造、S造 地下1階 地
上13階 ⑥12,730.02㎡



国営アルプスあつみの公園 大町・松川地区 林間レクリエーションゾーン公園施設群

①長野県大町市 ②国土交通省関東地方整備局国営アルプス
あつみの公園事務所 ③仙田満+(株)環境デザイン研究所 ④
北野建設(株)、(株)傳刀組、(株)相模組、金森建設(株) ⑤木造 一
部RC造 地上2階 塔屋1階 ⑥2,219.51㎡

特別賞



熊川宿における伝統的民家の復元的修理 2005～2012

①福井県三方上中郡若狭町 ②若狭町熊川宿修復事業 ③宮
田建築設計室、福井宇洋(福井大学非常勤講師) ④(株)西野
工務店、(株)北條 ⑤木造 平屋建及び2階建 ⑥岡本邸他
17棟

住宅部門

入賞作品



透明な地形

①愛知県岡崎市 ③南川祐輝建築事務所 ④箱屋 ⑤木造
地上2階 ⑥ 97.86㎡



岳見の家

①名古屋市 ③向井一規建築設計工房 ④榎前田工務店 ⑤
RC造+木造 地下1階 地上1階 ⑥ 83.99㎡



K HOUSE

①愛知県日進市 ③D.I.G Architects、なわけんジム ④長
瀬組 ⑤S造 地上2階 ⑥ 74.39㎡



OSHIKAMO

①愛知県豊田市 ③佐々木勝敏建築設計事務所 ④榎井上工
務店 ⑤木造 地上2階 ⑥ 101.96㎡



おもちゃ箱

①名古屋市 ③株式会社ワーク・キューブ ④株式会社サンロテック ⑤
木造 地上2階 ⑥ 142.38㎡



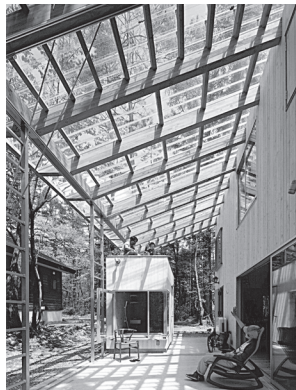
VALLEY

①静岡市 ③MOUNT FUJI ARCHITECTS STUDIO ④桑
高建設㈱ ⑤RC造 一部S造 地上2階 ⑥ 241.02㎡



HOUSE S

①静岡県下田市 ③株式会社アトリエ9 建築研究所 ④株式会社榎
本工務店 ⑤S造 地上3階 ⑥ 200.58㎡



白馬の山荘

①長野県北安曇郡
③一級建築士事務
所株式会社仲建築設計ス
タジオ
④株式会社池田建設
⑤木造 地上2階
⑥ 84.16㎡



bird house

①名古屋市 ③株式会社宮本佳明建築設計事務所 ④株式会社榎
戸建設 ⑤木造 地上2階 ⑥ 117.46㎡



ソラニワ

①岐阜県可児郡
③アトリエ ルクス
一級建築士事務所
④株式会社榎
井上工務店
⑤木造 地上1階
⑥ 86.38㎡



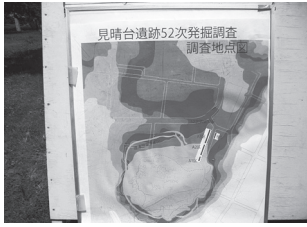
ありんこの家

①静岡県御前崎市 ③株式会社エムエーススタイル建築計画 ④株式
会社カネ子工務店 ⑤木造軸組工法 地上2階 ⑥ 119.25㎡



森の階調

①長野県北佐久郡 ③浅野言朗建築設計事務所、柴村豊士構
造設計事務所 ④西澤工業㈱ ⑤木造 一部S造・RC造
地上1階 ⑥ 137.75㎡



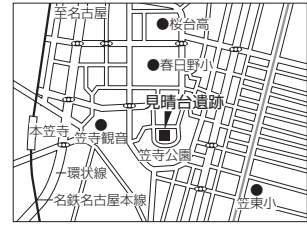
52次発掘調査部分を示す看板



B29の残骸



戦争時の住居跡



■紹介者コメント

去年の夏の盛り35℃を越す暑さの中、見晴台遺跡第52次発掘調査に参加しました。

見晴台遺跡は、笠寺台地と呼ばれている台地の先端部にあたりで、我々が工事中で出くわす遺跡が破壊されないよう、データを保存する緊急発掘ではなく、長い時間をかけて遺跡を詳細に調べる学術発掘にあたります。

まだ周りが田んぼだった頃、笠寺公園として整備されることになったことを契機として、昭和39(1954)年に最初の発掘が行われました。それ以降、昨年まで続いてきています(今年も続く模様です)。昭和55(1980)年より市民の参加を募り発掘調査を行っています。発掘作業というと、筆や刷毛などを使った細かな作業と思

いがちですが、実際はスコップと鍬を使うかなり粗い作業です。旧石器時代から中世にかけての遺物が見つかっており、茶碗のカケラなどが出てきたときには慎重になりワクワクします。

見晴台遺跡は、弥生時代から古墳時代にかけての環濠集落(住居が、幅・深さ共に4mもある大きな濠に取り囲まれている)の跡です。直径が180mあり、この範囲内に200軒以上の堅穴住居が確認されています。環濠は、敵からの襲撃にそなえてムラ(集落)を守る設備と考えられています。第2次大戦中は基地として使用され、その跡も見られました。以前には、高射砲陣地跡も見つかり、また昨年、くしくも終戦記念日の新聞に掲載されましたが、B29の残骸も発掘されました。戦後、GHQの目を逃れるため廃

棄したとのことです。この時代も発掘の対象となっています。建物としては玉石(基礎)が残っていました。

発掘作業は保存とはかけ離れた存在で、過去の遺構を壊し、その中にある遺物を取り出す作業です。建物に言い換えれば解体した梁や柱を置き換えるようなものです。

7月18日から8月19日まで穴掘りや水汲みなどいろいろな作業を皆で行い、中学生も参加し、充実した夏を過ごしました。

見晴台遺跡(笠寺公園内)：名古屋
市南区見晴町47 (見晴台考古資料館 TEL 052-823-3200)

神谷勇雄 |
設計室ユウアンドアベトウ



正面



下からの見上げ



座敷



■発掘者のコメント

愛知県半田市の雁宿公園内に「ピアかりやど」として使われた施設がある。この建物は明治天皇の仮御所として使用されたのを移築したもので、もともとは東へ1.5kmほど離れた「小栗富次郎邸」内(当時の知多一番の富豪)にあった大本営御便殿跡の一部らしい。現在、小栗邸はなく、跡地は国盛「酒の文化館」となっていて、一般に公開されている。

雁宿公園は標高40mほどの丘陵地(雁宿山)で衣浦を一望できる位置にあり、明治23(1891)年、陸海軍総合大演習が愛知県で行われた際に、明治天皇が戦況を視察された地である。行幸随伴したのは当時の閣僚のほとんどであった

が、その中に当時の初代帝大総長で初代日本建築学会会長の渡辺洪基が含まれていたのは興味深い。

小栗富次郎家はその後、破産、建物は中産産業合名会社の手に入ったが、昭和5(1930)年に半田市に寄付された。現在地に移築されたのは昭和8(1933)年で、しばらく半田市の結婚式場として活用されたが、昭和52(1977)年に廃止。その後改修を重ねてきたが、平成19(2007)年の耐震診断の結果、「倒壊する可能性大」。古い歴史ある建築物の多くがそうであるように、この建物も現在は使用されず、半田市(都市計画課)の管理下にあるものの廃家同然となっている。明治天皇の寝所となった部屋をオリジナルの形で残せる

のか…? またこの建物を今後どのように活用していくのか…? 「ピアかりやど」として復活するのか…? 行政も含めて知恵の絞りどころである。

この北側には、以前は半田市民を潤していた旧貯水池もあるので、それを含めた活用を期待したいのだが…。

所在地：愛知県半田市雁宿町3-204-1 雁宿公園内
建築年代：明治20年建築、昭和8年移築、昭和57年改修、平成5年改修
構造・形式など：木造平屋建て日本瓦葺き、外壁下見板張り・モルタル仕上げ
建築面積：165.54㎡
延床面積：165.54㎡
参考資料：「半田市誌」

原眞佐実 | 原建築設計事務所



本部委員会体制を再編へ

理事・東海支部長 鳥居 久保



■理事会

第207回理事会・理事懇談会は2012年12月19日（水）13時30分～16時30分まで建築家会館1階大ホール＋WEB会議で行われた。出席者は会長以下、理事21名（3名欠席）、監事2名、事務局2名。

【審議事項】

1. 入退会者承認：13名入会、2名退会、1名死亡退会を承認。会員数4,407名（12月19日現在）
2. 後援名義承認：6件の後援を承認
3. ベルコリーヌ問題：第二東京仲裁センターからの裁定を受けた後も弁護士を介して調整を続けてきたが、12月、UR側から回答があった。それによると、業務委託料8,090万円のうちの残金2,000万円の支払い請求に対し、UR側は1,900万円＋平成21年7/1以降支払日までの法定利息分（年5%）を支払うという和解案が出てきた。すなわち、1,900万円＋332万円＝2,232万円をJIA側に支払うというもの。JIAとしてはあくまで2,000万円満額を要求して訴訟を起こしても良かったが、早期解決と実をとってこの覚書を取り交わしたい。以上、審議の上、承認。

【報告事項】

1. 2013年度本部役員選挙について：2013年度本部役員選挙の第1回告示が12/15に行われた。2/4立候補締め切り。選挙になった場合でも3/15の選挙結果の公表をもって日程を終える。

■理事懇談会

1. 2013年度支部運営費配分について

会費収入全体に対する、本部運営費と支部運営費との拠出割合は11/15の理事会において承認されたとおり、2013年度からは60：40の割合で分配されることになる。そうなれば、2013年度予算での支部運営費は18,000円×4,400人×0.94=74,448,000円となり、これをどう各支部に分配するかについて、2案提示され、意見交換した。

A案は、会員数1,100人以下の支部に格差調整費（分配された運営費の30%にあたる）を加算する場合であり、B案は会員数750名以下の支部に加算する場合の2案で、各支部が受ける運営費の検討を行っている。総務委員会が1年かけて事務局の現況調査・分析をした結果、中国、北陸、四国、沖縄の4支部において強化すべき必要性があるという結論に達し、最低でも400万円前後の運営費が確保できるようにしたものの。しかし、この

「400万円」の合理的根拠が希薄であり、さらに検討の余地ありとの意見が出された。

また、各支部間における運営費分配の格差の大きさに異議が出されたが、一方では、支部運営費の多寡は必ずしも人数割りで決まるものではなく、支部の活動そのものに立脚するものこそ本道であるといった主張がある。今回提出された2案はいずれも旧来からの分配計算式を使って算出しているが、新たな計算式による算出方法が提案され、今後検討することとなった。

2. 本部委員会体制の再編について

公益法人移行にあたり、本部と支部の役割を明確化する中、小さな本部を目指し、複雑な委員会構成を一旦ゼロベース化し、構成し直す。すなわち、本部は単一会としてのガバナンスに重きを置き、支部に機能を移管する。

その際の考え方として、国が行っている政治手法において、最低限必要とされる役割が、「外交」「防衛」「社会保障」とされているのを参考としたとき、JIA本部もそれにならい、それぞれ「社会貢献」「組織維持」「会員サービス」として再編する。

「社会貢献」には職能、公益事業、国際事業各委員会、「組織維持」には財務・会計、総務・事務、フェローシップ各委員会、「会員サービス」には業務改善、教育・表彰、広報・アーカイブ各委員会が編成され、その他の現在ある本部の委員会は支部ミッション、地域会ミッションに分類され、支部や地域会に移行して存続させる。ここでは支部、地域会相互の連携協議の中で情報を共有し、委員会活動を行う。

3. 支部・地域会における準会員、協力会員の扱いについて

関東甲信越支部から出された「準会員・協力会員についての考え方」のレポートをもとに議論。その骨子は、準会員の中の専門会員・シニア会員の会費を全国統一し、金額を合わせる（ここでは18,000円）。会費は本部徴収だが、必要経費（機関誌、CPD管理費など）を除き支部に還元。活動は全国を視野に入れる。

一方、ジュニア会員・学生会員の会費は、支部内で統一。広報誌などの支部経費を差し引き、地域会に還元する。活動の場は支部、地域会、というもの。

各支部はこれらの考え方を参考に、支部に持ち帰り方針を決める。役員会での調整を経て理事会の場で発表、承認へ進む。

スケジュールとしては支部規約、地域会規約は今後2月の支部役員会に提出された後、3月の理事会承認となる。

東海支部役員会報告

「JIA 建築家大会2012横浜」と「東海大会2012 in 伊賀」が終了し、関係者の皆さんには、長期間にわたり、準備と運営に尽力され、改めて御礼を申し上げます。緊縮予算にもかかわらず、例年にも増して高い評価であったことに、苦勞が報われた感があります。公益法人への移行により本部・支部・地域会の役割・運営費・会員身分などに大きな変革がありますが、会員を増やし、公益法人JIAの発展を期したいものです。東海支部にあつては、新年度から「JIA 東海住宅賞」が創設されます。若手建築家の登竜門として大きく育ち、「建築家」が子供たちの焦がれの職業となるよう願ってやみません。



村山恒久 | 村山建築設計事務所

日時：2012年12月21日（金）16：00～18：00

場所：昭和ビル5階 JIA 東海支部会議室

出席者：支部長、幹事11名、監査2名、オブザーバー7名

1. 支部長挨拶

2. 報告事項

(1) 本部報告

①臨時理事懇談会（11/29）（小田） ※1月号理事会レポート参照

②第207回理事会・理事懇談会（12/19）（鳥居）

※今号理事会レポート参照

③第3回会員増強特別委員会（12/19）

会員増強の状況、会員増強キャンペーン期間の設定と特典、フレッシュマン・セミナーの次年度開催、新規会員入会の取り組み

④総務委員会（12/13）（服部）

【審議事項】

1. 入退会：入会13名、退会2名、死亡退会1名を承認

2. 「2013年度支部運営費配分」の理事会への提案を承認

【協議事項】

事務局改革・規定類WG、会員・会計システムWG、会員増強WG各報告

【報告事項】

2012年度予算執行状況、公益法人移行手続きの進捗状況、一級建築士なりすまし事件、支部・地域会における規約・規則制定スケジュール

⑤広報委員会・全国支部広報委員長会議 第9回（12/18）（江川）

・東海支部の会員増強は23.6%（全国目標達成32%）

・JIA 建築家大会2012横浜の参加者数は目標に達しなかったが、少ない予算の中でレベルを落とさずに実行することができたことを報告。

・支部報告で、11/12建築家資格制度委員会、11/14総務委員会、12/8設計競技表彰式、JIA 東海住宅賞事業計画を発表した。

・JIA マガジンの今後について、来年度から機関紙の予算見直しの可能性があるとの報告に対し、一般向けの機関紙でもあるため、アカデミックな内容は残したい、紙媒体の部分とWEBの部分の両方があっても良い、との意見があった。

・WEB広報WG・市民向リーフレットWG・プロポーザルWG・資格制度WG・会員増強WGから報告があった。

⑥CPD評議会（11/26）（塚本）

・53件中28件認定、1件は東海支部認定、24件修正。

⑦建築家資格制度委員会 第116回（11/22）・第117回（12/14）（鈴木祥）

・JIA 建築家大会2012横浜シンポジウムについて（河野）

・「建築家法」「建築基本法」に関する意見があった。

・「実務訓練」「実務訓練生」に関する意見があった。

・第1回本部建築家認定評議会開催日の案

2013年 3月21/22/27/28/29

・登録建築家2012年度申請（新規・更新）の取り扱い

(2) 支部報告

①CPD評議会（12/21）（塚本）

②総務委員会（12/21）（服部）

・支部規約の変更点をチェック、次回役員会で協議・審議する。

・地域会規則が出揃ったのでチェックをお願いしたい（地域会規約は作らず、支部規約・地域会規則のみとなっている）。

(3) 各地域会からの報告

岐阜地域会：1/27 講演会 講師：未来工業相談役 山田昭男

三重地域会：2/23 建築文化講演会 講師：栗生 明

3. その他 「JIA 建築家大会2012横浜」報告（水野）

議事

1. 審議事項

①「開発許可制度研修会」の後援名義承認/「日刊建設通信新聞社」広告掲載 承認

②「JIA 東海大会2012 in 伊賀」決算報告（奥野） 承認

参加者：静岡12名、愛知38名、岐阜4名、三重24名、奈良2名 小計80名、賛助会員21名 合計101名の参加。

③「JIA 東海住宅賞」について（吉元）

本賞は、愛知県・岐阜県・三重県・静岡県の東海4件につくられた住宅（専用住宅・集合住宅など）を対象とし、建築家の資質が表れている優れた住宅を設計した建築家および住宅作品に対して贈る賞。（中略）プログラム・空間構成・ディテール・環境への配慮・工法などの点の新しさにおいて秀でた住宅を広く募集する。

（意見）

・建築家だけに贈る賞なのか、施主・施工者にも贈る賞なのか？

・新しさに秀でた住宅でないといけないのか？

・複数回応募はできるのか？

・予算の余剰金・赤字は次年度には持ち越せない。

・JIA 賞であるので建築家という名称に一般参加者が馴染むか？

2. 協議事項

①東海学生卒業設計コンクール2013 予算案および電子ブック制作の件（吉川）

②会員増強委員会を立ち上げて地域会長に出席してもらいたい…異議なし

3. その他

①持ち出し役員会について（江川）

②「JIA 東海支部設計競技」の表彰式・講演会が行われ150名の参加があった。（水野）



お城が正面に見える通り

旧上野市内で、伊賀上野城が道路の軸線上に見える通りがある。上野鉄砲町東側の南北に走る通り。町名から想像できるように江戸時代には鉄砲組衆の屋敷町が位置していた。普通車1台が通れるだけの生活用道路であり、日中でも人通りは少ない。通りの北側で東西に走る路地に突き当たるので、あまり近づくとお城が見えなくなる。お城が見えるのは、せいぜい南北に200mぐらいか。お城が見える通りは市内にもう1カ所あるのだが、そちらは軸線が少し右に振っているため、これだけきれいに道路中心に位置するのは、唯一ここだけである。それがどうしたと、言われそうであるが、伊賀市では景観計画ガイドラインで、この軸線のお城までの間にその眺望を遮るものはつけないことが決められて



ている。ささいなことではあるが、このような積み重ねが地域を魅力的にしていく。ここは、今年度の支部大会エクスカーションのルート外だったが、近くには松尾芭蕉の蓑虫庵もあり、別の機会に散策においでください。

西澤のコロッケ

私が小学生の頃、夕食のおかずによく買いに行かされた。出来合いのお総菜が食卓に並ぶことなど、我が家にとってはすごいご馳走であった。ひとり一つずつと決まっていたので、できるだけ最後まで取っておいて食べたのを覚えている。現在販売されているコロッケの味は当時と全く変わっていない。そんな、伊賀牛が入ったジャガイモコロッケは昭和の味がする。味は濃いめであるが、微妙な甘さと癖になる旨みが絡み合っ、ソースなどほかの調味料は一切いらぬ。つい2個目に手が出るおいしさである。さめてもおいしく食べられるが、熱いうちにどうぞ。ネット販売もしています。

元祖西澤コロッケ店：
伊賀市上野小玉町3090 TEL 0595-21-5249



地域会だより

<静岡>

- 12/13 12月定例運営役員会・JIA塾・忘年会出席27名
塾:演題「国産材の未来とその利用法について」(鈴三材木店)
演題「地盤改良会社が語りたがらない地盤改良の話」(グランドワークス)
- 1/7 建築設計関係団体による静岡県知事、副知事への年始挨拶に参加
- 1/10 1月定例運営役員会・JIA塾の開催
塾:演題「現場発泡ノンフロン化の必要性について」(野村商店)
演題「木造耐火建築物に於ける石膏ボードの役割」(稲葉商店)
- 1/24 東海支部持出し役員会 国宝久能山東照宮を見学
- 1/25 建築五団体賀詞交歓会への参加
- 2/7 2月定例拡大運営役員会
- 2/22 第4回建築ウォッチング:東工大キャンパス

<愛知>

- 1/9 愛知県設備設計監理協会 新年祝賀会
- 1/11 建築八団体 新年互礼会 ※次回はJIA愛知が幹事団体。要見習い
- 1/14 資格学院(=愛知・賛助会)平成24年度合格者祝賀会:士会・事務協とも
- 1/16 日本構造技術者協会中部支部 新年互礼会
- 1/18 役員会/新年会
- 2/1 役員会

- 2/4 建築八団体 定例連絡会
- 2/8~9 世界劇場会議:レセプション&セッション
- 2/12 愛知建築士会 専攻建築士審査評議会
- 2/20 JIA愛知賛助会 CPD研修
- 2/21 建築家賠償責任保険解説 説明会
- 3/3 TALK & TALK「変わる家族と変わる住まい」

<岐阜>

- 1/10 18:00~ 1月役員会および新年会 場所:COA 13名参加
- 1/27 JIA岐阜地域会講演会開催(公益事業として)
13:00~15:00
場所:各務原市産業文化センター 2F-3
講師:未来工業相談役 山田昭男氏「常に考える!」
担当:山田(浩) CPD2単位

<三重>

- 1/18 会員集会(三重地域会規則について) 支部大会打上げ
- 2/8 第7回例会(建築文化講演会及び「三重の建築散歩展」について)
- 2/23 建築文化講演会 講師:栗生 明氏
場所:津市 アスト津4F アストホール
- 2/23 『三重の建築散歩』発刊記念展覧会
~24 場所:津市 アスト津5F ギャラリー2

一柳の家族葬は 654,795円～

(日本建築家協会東海支部会員様会員割引価格)

紋朱子前机祭壇(柳1号)(枕花1対) 葬儀費用 726,930円の場合

祭壇から葬儀後に必要な後飾りまでの一切を含んだ
総額の表示をしております。

1. 表示金額は税込みです。一柳の斎場にて執り行う場合の金額となります。
 2. 上記費用には、祭壇、棺、焼香用具、受付用品、葬儀飾り付けに必要なもの、ドライアイス1回、枕飾り用具、後飾り用具、後飾り生花1対、火葬料金と休憩所料金、寝台車料金(市内1回)、霊柩車料金、式場使用料(いちやなぎ斎場)が含まれております。
 3. 2については標準的な数量・品質で用意していますが、食事、粗供養品など、数量・品質のご希望により変わるもの、また湯かんなどご利用いただくものは別途料金となります。
 4. 宗教者へのお礼は別途になります。
- ◎ 宗教・宗派にかんがった祭壇(価格)を200余种ご用意しております。

日本建築家協会東海支部会員様とご家族の皆様には、
葬儀基本価格の15%を割引いたします

いちななぎ中央斎場

名古屋市千種区千種二丁目19番1号
TEL (052)745-1212
地下鉄桜通線「吹上駅」◎番出口より西へ700m

駐車場 / 170台以上



いちななぎ野並斎場

名古屋市天白区野並三丁目538番1号
TEL (052)899-0111
地下鉄桜通線「鳴子北駅」◎番出口より西へすぐ

駐車場 / 100台以上



古くから受け継いできた葬送という文化
弔う事を今も大切に伝えます
信頼と真心の葬儀で130余年
一柳葬具總本店

安心して任せられるのは一柳です

一柳の「家族葬」



株式会社

創業130余年の伝統と実績

一柳葬具總本店

ISO 9001
品質マネジメントシステムの国際規格
JQA-QM4191

葬儀のお申し込み、お問い合わせ、事前相談は

TEL. 052-251-9296

365日
24時間
受付

<http://www.ichinaganagi-sougu.co.jp>

一柳葬具總本店

検索

編集後記

●今月号は11/29～12/1に開催された横浜でのJIA建築家大会と10/27～28の伊賀での東海大会のレポートで誌面の多くが埋められています。それらの記事の中で、特に「地域」の文字が多く使われています。コミュニティアーキテクトをJIA活動の目標とする中、3.11の災害を契機に、より地域貢献が建築家に求められました。それぞれが生活し、活動する地域の中で職能を発揮すること＝社会貢献であることが「地域」の文字に込められています。

また、鳥居支部長の理事会レポートでは「本部委員会体制の再編について」で「小さな本部」を目指し、「支部に重きを置く」との報告もありました。本誌「ARCHITECT」も東海支部の各地での会員の活動を広く広報することで、地域に建築家が浸透し、親和への

一助になればと思うところです。(生津康広)

●あの3.11、街がわずか1時間でなくなってしまふとは想像だにできない光景だった。多くの人の思いと汗と時間を一気に呑み込んでしまった。都市とは街とは住宅とは、そんなものだったのか？ そのとき本当にそう思った。

柳沢究氏による連載「インドの都市から考える」が始まっている。グローバリゼーションの時代、境界を喪失し、ますます同質化が進んでいる。異文化に触れてもそれに気づかない、自身のアイデンティティを失っているのだ。

そして今、街を取り戻そうと多くの努力が始まっている。まったく更地になった街に立ち、もう一度わたしたちの街を創るには、それがもともと同一の場所であろうが、高地へ街ごと…であろうが、真の自身を見出すことなくして再興などできないだろう。そんなことをこの連載は考えさせてくれる。

読者を惹きつけて離さない連載がまだまだ続く。(黒川喜洋彦)

<おしらせ>

大影佳史さんによる連載「まちの風景」は、執筆者体調不良のため次号以降に掲載させていただきます。

ARCHITECT

第293号

発行日 2013.2.1 (毎月1回発行)

定価 380円

発行責任者 鳥居久保

編集責任者 吉元 学

編集 東海支部会報委員会

愛知地域会ブリテン委員会

建築ジャーナル内

ARCHITECT 編集部

名古屋市東区泉 1-13-35

CSC HISAYA BLD.

TEL (052)971-7479 FAX 951-3130

行所 (社)日本建築家協会東海支部

名古屋市中区栄 4-3-26 昭和ビル

TEL (052)263-4636 FAX 251-8495

E-Mail : shibu@jia-tokai.org

<http://www.jia-tokai.org/>